| 科目名 | 社会学 | 対象学年・時期 | 1年　前期 |
|---|---|---|---|
| 講師 | 非常勤講師 | 単位数・時間数 | 1単位・30時間 |
| 授業概要 | デイプロマポリシー1・3・6に基づく。<br>　社会学では、社会と人間との関係から社会の構造が人間の意識や行動にどのような影響を与えるかを学び、社会的存在としての人間を理解する。人間はさまざまな社会集団の中で生活しており、社会は暮らしの基盤といえる。そのため個々の人間が家族・学校・地域社会・職場などの集団のなかで、どのような役割を果たし、影響し合っているのかを知ることは、人間を理解するうえで重要である。<br>　看護は、社会の中で生活し社会を構成している人々すべてを対象に、健康の保持増進・疾病の予防・健康の回復・苦痛の緩和を目的とする対人援助職である。したがって、対象やその対象を取り巻く人的環境の理解、生活の理解、社会状況や価値観の変化、社会現象への理解を深めることで、対象にあった質の高い看護ができるものと考える。<br>　また、学生も1人の人間であり社会的存在である。そして将来「看護の専門職業人」として社会集団の中で、その機能と役割を果たすことを期待されている。そのため、社会的存在としての自己を理解し、看護の専門職業人としての社会参加についての展望を持つことが必要である。 | | |
| 授業形態 | 講義（下記テキストを基盤にしつつ独自資料を毎回配布），グループワーク | | |
| 学習目標 | 社会学の有する「多角的な視点」・「領域横断性」・「価値相対性」といった学問的特徴を、具体的事例をとおし学ぶ。そうした学びから、多様な価値観を持つ社会の総体を、看護の主体である自分に引き付けてて考えられるよう、柔軟な思考能力を育成する。特に個と社会集団との関係に配慮しつつ、下記内容に関し具体的事例を挙げて概説する。また、看護の現場に即した社会学的研究の現状をふまえた講義を心がける。 | | |
| 授業計画 | ※（　）内はテキストの該当箇所<br>１．なぜ看護で社会学を学ばなければならないか？（第1章 社会学への招待）<br>２．家族の社会学１（第8章 現代家族の社会学）<br>３．家族の社会学２（第3章 少子高齢化の推移と福祉国家の現在）<br>４．地域の社会学１（第15章 地域の中の医療と福祉）<br>５．地域の社会学２（第4章 現代社会の貧困と格差）<br>６．集団と組織の社会学（テキスト外。インフォーマルグループ，官僚制）<br>７．性と性差の社会学（第6章 社会のなかのジェンダー規範，第7章 性と身体に関する医療知）<br>８．「医療化」の社会学１（第9章 医療の文化的側面，第10章 近代社会の「医療」概念の形成）<br>９．「医療化」の社会学２（第13章 健康と予防の産業化と自己責任論）<br>１０．終末期と死をめぐる社会学（第18章 生と死の社会学）<br>１１．医療における人間関係１（第5章 社会的逸脱と社会的包摂の仕組み）<br>１２．医療における人間関係２（テキスト外。エスノメソドロジー・社会的構築主義）<br>１３．新型コロナウィルス感染症と社会（第19章 ウィズコロナの社会（学））<br>１４．「感情」の社会学（第11章 ケアの社会学，第12章 看護・看護現場における「感情」の所在）<br>　　終講試験（90分） | | |
| 使用テキスト・参考書 | 「看護を学ぶ人のための社会学」（阪井俊文/濱野健/須藤廣 編著）<br>「ナースのための社会学入門」（勝又正直） | | |
| 事前・事後学修 | | | |
| 評価基準・評価方法 | 平常点（出席状況、小レポート等）および終講試験により総合的に判断し評価する。 | | |
| 備考 | 毎回の講義の前に予習としてテキストの該当箇所（上記「学習内容」参照）を読んでおく事。 | | |